

アジア人財資金構想・金沢大学コンソーシアムにおける 短期集中型ビジネス日本語教育とその評価(2)

太田 亨・深川 美帆・今井 武・島 弘子^{注1}

要 旨

本稿は、アジア人財資金構想・高度専門留学生育成事業による金沢大学コンソーシアム（金大コンソ）のビジネス日本語（BJ）教育について述べた太田他（2010）の続編である。金大コンソ BJ 教育は、長期休暇期間中を利用した「短期集中型」を採用しているが、前稿で指摘した5つの問題点を改善した結果、第1期生7名と第2期生（国内採用）2名に続き、タイ人とベトナム人（非漢字圏学生8名）を含む、第2期生（海外採用）15名においても、短期集中型カリキュラムによって学生の BJ 力が伸長したことが確認された。一方、2010年11月に行われた、政府行政刷新会議の事業仕分けにより、アジア人財資金構想という事業自体が廃止と結論づけられたため、今後、金大コンソの BJ 教育の運営を「自立化」させることが急務であり、そのための6つの自立化計画案骨子を提示した。

キーワード：アジア人財資金構想，高度専門留学生育成事業，金沢大学コンソーシアム，短期集中型ビジネス日本語教育，自立化

1. 序

本報告は太田他（2010）の続編である。まず次節では、平成22年度以降のアジア人財資金構想（アジア人財）の展開とその流れを受け、金沢大学コンソーシアム（金大コンソ）・高度専門留学生育成事業（高度専門事業）の対応について概観する。続く第3節では、太田他同論文（pp.7-9）で指摘した「今後の課題」を受け、金大コンソ「短期集中型」ビジネス日本語（BJ）教育カリキュラム内容の改善点を紹介し、その結果、第2期生（海外直接採用）15名においても受講学生の BJ 力が一定程度上昇したことを

1 太田・深川（金沢大学留学生センター），今井（石川県国際交流協会），島（石川県産業創出支援機構）

確認する（第4・5節）。そして、最後の第6節では高度専門事業終了後の金大コンソBJ教育を展望して本稿を締めくくる。

2. 平成22年度以降の高度専門事業

アジア人財高度専門事業は、平成19年度から経済産業省主導により開始したプロジェクトで、アジアからの優秀な外国人を母国と日本の「ブリッジ人材」（海外技術者研修協会2006）として育成し、日本企業あるいは母国の日系企業に就職させることが期待されている。平成22（2010）年度現在、金沢大学を含む全国23コンソーシアムで事業が継続的に実施されているが（経済産業省経済産業政策局産業人材担当参事官室2007）、平成21（2009）年11月に行われた政府行政刷新会議の「事業仕分け^{注2}」により、事業そのものが「廃止」と結論づけられた。

金大コンソ高度専門事業はこの流れを受け、平成22年度から自然科学研究科博士前期課程「高度専門（技術・ビジネス）留学生特別コース（特別コース）」の新規学生募集と受入れを停止し、現在在籍する特別コースの修士2年生15名（第2期生）と1年生19名（第3期生）に対する教育のみ継続して取り組んでいる。

3. 金大コンソ短期集中型BJ教育カリキュラムの改善点

本節では金大コンソにおけるBJ教育カリキュラムの改善点について述べる。

まずここで、金大コンソにおけるBJ教育の一大特徴を今一度纏めておきたい。それは、運営方法に「短期集中型」を採用し、夏期休暇中5週間100時間と翌春期休暇中7週間140時間で実施している点である。また、「短期集中型」の骨子をなすのは、①（財）石川県国際交流協会日本語・日本文化研修センター（IJSC）と共同運営で、②アジア人財資金構想・共通カリキュラムマネジメントセンター・（財）海外技術者研修協会（AOTS）配信の教材集を金大コンソの実情に合わせ大胆にカスタマイズし、③ビジネス・ティーチング・アシスタント（BTA）制度により、日本語教師が容易に扱えない分野でコラボレーション授業を実施して、④金大内の「総合日本語コース（総合日本語）」等の科目と教育内容の補完を行っている点であった（太田他2010, pp.2-4）。

2 <http://www.cao.go.jp/sasshin/oshirase/h-kekka/pdf/nov27gijigaiyo/2-71.pdf>

（事業仕分け第2WG, 事業番号：2-71「産学連携による留学生向け実践的教育事業」、2011年1月参照）

しかし、同論文 (pp.7-9) では同時にいくつかの問題点も指摘した。まず、(1)会場となる IJSC と金大が離れており学生が不便を感じている点、(2)非漢字圏のタイやベトナムの学生たちに対して AOTS 配信教材集を再カスタマイズする必要がある点、(3)短期集中型 BJ 教育中の課題の与え方を改善する必要がある点、(4)BTA と事前事後のより入念な打合せを行う必要がある点、そして、(5)近い将来、金大コンソ独自で BJ 教育を運営していく際、IJSC との連携をどのように行っていくか、の 5 点であった。このうち、(1)と(5)については最後の第 6 節で触れることとし、本節では残りの 3 点について述べたい。

まず(2)については、太田他上掲論文で述べた「ルビ振りはもちろんのこと、語彙をより簡単なものに置き換えたりする」(pp.8-9) ことを実現させ、日本語能力試験 N2 程度の日本語力で理解できるような「リライト版」教材集³を作成した。そして、このテキストは、第 2 期生 15 名のうちタイ人学生 3 名とベトナム人学生 2 名編成のクラスの 2009 年夏期 BJ 教育で実際に活用された。

次に(3)については、BJ 教育の進行表を工夫することで出来る限りの改善を図った。具体的には、負担の大きい課題が出されるタイミングを週末や休日の前に置くことで、時間的な余裕を持たせるよう努めた。

そして、最後に(4)については、新しく導入した AOTS 配信教材の単元である、C5 「IT コース：企業の情報化活動入門」において、BTA として金大の総合情報メディア基盤センターでデータベースを専門とする教員を招聘し、事前勉強会を開催するなどの工夫を行った。

4. 短期集中型 BJ 教育受講生の日本語力推移

前節に述べたような改善を行った結果、特別コースに在籍する第 2 期生 15 名 (中国人 7 名、タイ人 6 名、ベトナム人 2 名) の日本語力がどのように推移していったかを、学生の「ビジネス日本語テスト簡易版 (BJT) ⁴」得点レンジと BJT 受験時⁵の総合

3 リライト版教材集を作成し使用することは、アジア人財の BJ 教育現場でのみ認められている。したがって、たとえその一部であっても本稿に掲載することはできない。

4 BJT は、2009 年 3 月まで (独) 日本貿易振興機構 (JETRO) が 18 回にわたって実施してきた「BJT ビジネス日本語能力テスト」をアジア人財用に簡易化したものであるが、2009 年 4 月から「BJT ビジネス日本語能力テスト」が 財団法人日本漢字能力検定協会に移管されたことで、高度専門事業の BJT も同協会により実施されることとなった。

5 初期値は 2009 年 7 月 25 日、最終値は 2010 年 7 月 31 日に測定された。

日本語のレベルとで示す^{注6}。

総合日本語のレベルで見ると、全員レベルが毎学期確実に上へ上がっており、中にはBJT最終値の学期に総合日本語をもう受講しなくなったというケース（S3）も見られた。

一方、BJT得点レンジで見ると、初期値ではJ3が10名と最も多く、J2が2名、J4が3名いるという分布だった。それが最終値になると、レンジがJ3から一気にJ1まで伸びた学生（S8）がいる一方、レンジ変化がなかったケースが9例も見られた（表1）。

表1 特別コース第2期生の日本語力推移に関するデータ

学生	BJT 初期値	総合 日本語①	BJT 最終値	総合 日本語②	学生	BJT 初期値	総合 日本語①	BJT 最終値	総合 日本語②
S 1	J 3	C 2	J 3	E	S 9	J 3	C 2	J 3	E
S 2	J 3	C 2	J 3	E	S10	J 3	C 2	J 3	E
S 3	J 2	E	J 2	—	S11	J 3	D	J 2	F
S 4	J 3	C 2	J 3	E	S12	J 4	C 2	J 3	E
S 5	J 2	D	J 2	F	S13	J 3	C 2	J 3	E *
S 6	J 3	C 2	J 3	E	S14	J 4	C 2	J 3	E
S 7	J 4	C 2	J 3	E	S15	J 3	C 2	J 2	E
S 8	J 3	C 2	J 1	E					

注釈：「—」は受講しなかったことを、「*」がついたものは途中で受講を放棄したことを、それぞれ表す。

5. 短期集中型 BJ 教育における評価

次に、短期集中型 BJ 教育後の評価を見ると、評価は第1期生のときと同様、BJTとBJ事後アンケートの2種で構成される。まず、BJT得点結果は次の表2のとおりである。

表2 特別コース第2期生のBJT得点に関するデータ

	平均値	標準偏差	最大値	最小値	中央値	最頻値
初期値	364.27	46.70	449	276	359	350
最終値	423.60	53.55	546	354	410	402

6 BJT得点レンジと総合日本語のレベル設定については、太田他（2010）の4-5ページを参照されたい。

表3 漢字圏／非漢字圏別 BJT 得点平均値と標準偏差

	漢字圏	標準偏差	非漢字圏	標準偏差
初期値	393.00	38.04	339.13	36.66
最終値	458.86	56.28	392.75	26.24

これらの値を用いて太田他(2010)の場合と同様、t検定を行ったところ、初期値と最終値の間は前回同様5%水準で有意に上昇していることが分かった(p=0.038)。また、第2期生を漢字圏学生(中国人7名)と非漢字圏学生(タイ人6名とベトナム人2名)とに分けてそれぞれ同様の検定をしたところ、前者が5%水準(p=0.033)、後者が1%水準(p=0.003)で有意に上昇していることも判明した(表3)。

これらの結果から、太田他(2010)の場合と同様、学生のBJ力は着実に伸長していると言える。特に、非漢字圏の学生のBJT得点の伸長が著しく、初期値から最終値までの1年の間に行われた金大コンソ特別コースの教育カリキュラムを構成する、「短期集中型BJ教育」、「総合日本語」、「インターンシップ」等が、今回もBJ力の伸びに一定程度寄与したと推定することができる。

次に、学生に対する事後アンケートだが、前回同様、AOTSから提供された20問の原案に短期集中型BJ教育を行う金大コンソ側で17問を追加し、計37問の設問を5段階評価で学生に回答させた^{注7}。次の図1は、全設問と15名分^{注8}の平均評点及び標準偏差を表したものである。

	夏BJ:2009.8.28		春BJ:2010.3.31		無印:N=15
	Mean	SD	Mean	SD	
1 今回のコースが始まる前に、十分な情報や説明がありましたか	3.93	1.16	3.67	1.06	
2 受講しやすい時間割でしたか。大学の他の授業との調整は簡単でしたか	3.47	1.19	3.20	1.26	
3 1回の授業の時間(長さ)は、適切でしたか	4.07	0.96	3.53	0.52	
4 コース全体のスケジュールは適切でしたか	4.00	0.93	3.20	0.62	
5 授業が行われた場所は、通うのに便利でしたか	4.20	0.68	3.67	1.11	
6 教室の大きさや設備は適切でしたか	4.80	0.41	4.60	0.82	
7 1クラスの人数は適切でしたか	4.47	0.64	4.47	1.16	
8 各授業を担当している先生と十分話す機会がありましたか	4.53	0.52	4.33	0.92	
9 授業担当の先生以外の人から十分な助けがありましたか	4.27	0.88	3.87	0.83	

7 問1-28までは2009夏と2010春共通のもの、問29-33は2009夏用、問34-37は2010春用である。

8 ただし、問30と問32に無回答者がおり、Nが15ではない。

10	コース全体の目的や授業の目的はわかりやすかったですか	4.47	0.64	4.13	0.83
11	授業はわかりやすかったですか	4.40	0.63	4.07	0.49
12	コースの内容は適切なレベルでしたか	4.00	0.93	4.20	0.52
13	教材の内容はわかりやすかったですか	4.13	0.52	4.13	0.96
14	教材の分量は適切でしたか	3.87	0.52	3.80	0.94
15	授業を受けて日本語が上達したと思いますか	3.80	0.77	4.20	0.86
16	授業を受けてビジネスについての知識が増えたと思いますか	4.67	0.62	4.47	0.64
17	コースで学んだことが将来役に立つと思いましたか	4.73	0.46	4.53	0.74
18	研修の評価(BJT,can-do、行動変容)は役に立ちましたか	4.20	0.94	3.93	0.80
19	今回のコースは、期待していた内容でしたか	4.27	0.80	3.73	0.80
20	今回のコースを友人や後輩にもすすめたいと思いますか	4.20	0.86	4.13	0.92
＜21以降は金大独自項目＞					
21	授業進度(速さ)は適切でしたか	4.07	0.88	4.13	1.06
22	プレゼンテーション練習は、コース全体の中で役に立ちましたか	4.73	0.46	4.53	0.52
23	ビジネスTAの授業は、コース全体の中で役に立ちましたか 夏(「日本企業文化論」、人事からみた望ましい人材の語、「メンタルヘルス」)、 春:との共業僱用金庫(男女共同参画)、高田先生(IT授業)、佐藤氏(パナソニック電工)、重松先生(キャンパス活性化企画)等	4.60	0.63	4.33	0.62
24	ビジネスTAの授業は、わかりやすかったですか	4.33	0.62	4.33	0.82
25	リファレのインターネット環境は、使いやすかったですか	2.80	1.37	4.67	0.49
26	リファレの勉強部屋(研修室6)を、利用しましたか	2.07	1.39	4.53	0.83
27	クラスのチームワークはよかったですか	4.13	0.74	4.47	0.52
28	あなたは、積極的に授業に参加できたと思いますか (主体的に取り組んだか、予習、宿題、課題への取り組み等)	4.00	1.00	4.27	0.96
29	3月にプレBJを勉強したことは、役に立ちましたか	4.60	0.51		
30	「日本企業文化論」の講義は、就職後に役に立つと思いますか	4.50	0.65	N=14	
31	A-2(業界企業研究)金大版テキストは、使いやすかったですか	3.87	0.83		
32	(A/BクラスのS)日本人へのインタビューは、日本社会の理解に役立ちましたか	4.20	0.79	N=10	
33	リファレ3階の参考図書は、役立ちましたか	2.67	0.90		
34	15名を2クラス(10名、5名)に分けたことは適切でしたか			3.93	1.10
35	C-2男女共同参画社会への提言に関するディスカッションは、役に立ちましたか			3.73	1.16
36	キャンパス活性化企画のプロジェクトは就職後、役に立つと思いますか			4.13	0.92
37	C-4 レポート検討会は、役に立ちましたか			4.13	0.83

図1 短期集中型 BJ 教育後アンケート及び結果 (2009夏&2010春)

これらのアンケートの中で、金大コンソのBJ教育を特徴づける「短期集中型」について尋ねた「コース全体のスケジュールの適切さ」(問4)の結果を考察すると、2009年夏期BJ教育では5点満点の4.00点、2010年春期BJ教育では3.20点であった。前回、2008年春期の同項目の4.57点、同年夏期の4.22点と比較すると、第2回目のBJ教育後の得点が3点台に落ちていることが看取される。その主な理由として考えられるのは、ちょうど本格的な就職活動(就活)の時期と重なったことであり、学生たちが就活をしながら毎日のBJ教育を受講するのにかなりの負担を感じていたものと推察される。

このほか、2回とも平均評価点が4点以上の項目は16問あり^{注9}、金大コンソ短期集中型BJ教育は前回に続き、今回も受講学生から比較的肯定的な評価を得ていると見てよ

いだろう。

逆に、前回2点未満(1.5点)が「実施場所」(問5)は、第3節の(1)で触れたとおり、IJSCの立地条件から見て評価点の改善は望めないものと予想したが、今回の結果は4.20点(夏)および3.67点(春)と、それほどまでに否定的ではなかった^{注10}。

また、夏春どちらも3点台が「事前情報や説明が十分あったか」(問1)と「大学の他の授業と調整しやすい時間割だったか」(問2)、「教材の分量は適切だったか」(問14)は、前回挙げられたものとはまったく異なるものが2つ挙げられている^{注11}。3つとも何らかの改善を図る必要があるが、中でも、最後の問14については再度指摘を受けたものであり、今後何らかの形で対応策を講じたり、カリキュラムを手直ししたりしていく必要があると考える。

6. 金大コンソ短期集中型 BJ 教育の今後の展開

以上の結果を受けて、最後に金大コンソにおける「短期集中型」BJ教育の今後の展開についての展望を述べる。

アジア人財の枠組みの中で行われていたときは、教育体制を整えるための予算が十分確保され、その上 AOTS という BJ 教育全般をサポートする「共通カリキュラムマネジメントセンター」の存在があった。しかし、それらの枠組みがすべて消滅する現在、金大コンソ内で「自立」した形で BJ 教育を運営していくことが求められている。そのための「仕組み」作りを検討する作業は、実はアジア人財事業開始2年目の平成20(2008)年度から始まっていた。しかしながら、第2節で述べたとおり、事業廃止が突如決まったため、BJ教育自立化の仕組みづくりを加速する必要に迫られたのである。

そこでこの最終節では、BJ教育自立化を翌年度に控えた段階での「自立化計画試案」を紹介する。

- ① 事業としてのアジア人財の枠組みが消滅した後は BJ 教育を金大内に移管し、総合日本語内の1プログラムとして継続し、運営する。
- ② アジア人財のときのように対象学生を自然科学分野に限定せず、金大全校へ向

9 前回は30問中23問であった。

10 理由としては2つ考えられる。(1)2009年夏 BJ 教育受講時に IJSC から比較的近いところに集住していたこと、(2)2009年夏の経験から2010年春 BJ 教育時点では大学と IJSC 間の通学に慣れて、不便さを感じなかったと思われること、である。

11 前回は「教材内容」(問13)と「教材分量」(問14)と、両方とも教材に関するものに集中していた。

けて開放する予定だが、受講生数を限定した上で、受講生募集時に「日本語能力試験 N2レベル程度以上であること」という受入れ条件を明確に設ける。

- ③ 大型の予算がなくなり、また受講生の構成も大きく変わることから、これまでのような「短期集中型」のみでの BJ 教育運営は不可能となる。そのため、学期期間中に行う BJ 教育を組み合わせる形で、新しい「折衷型」による 1 年半の BJ 教育プログラムモデルを提案する。
- ④ 著作権の関係で、今後 AOTS 配信の BJ 教材集を継続して使用することが徐々に困難となるため、「教材の自立化」も漸次図っていく。
- ⑤ 金大内に移管後の BJ 教育では、金大留学生センターの日本語教員も教育に直接参加するとともに、IJSC で BJ 教育を経験した日本語講師の一部にも協力を要請し、両機関の協力と提携関係を維持する。
- ⑥ 金大内の就職支援部局（就職支援室）との連携を強化し、学内外の BTA 人材の紹介と派遣、エントリーシート添削時の指導協力等、BJ 教育が直接学生の就活現場で生かされるような環境づくりを行う。

以上の 6 点が金大コンソにおける BJ 教育自立的運営の骨子となる。まだすべては実現していない段階だが、これまでの BJ 教育の経験により、運営のノウハウはかなり蓄積されてきた。予算的な制約があっても質の高い BJ 教育が行えるよう、今後も教育実践と教育研究を継続していきたいと考えている。

参考文献

- 1) 太田亨・今井武・島弘子：「アジア人財資金構想・金沢大学コンソーシアムにおける短期集中型ビジネス日本語教育とその評価・課題」、金沢大学留学生センター紀要, No.13, pp.1-10 (2010)
- 2) 海外技術者研修協会：「構造変化に対応した雇用システムに関する調査研究～日本企業における外国人留学生の就業促進に関する調査研究」報告書 (2006)
- 3) 経済産業省経済産業政策局産業人材担当参事官室：「グローバル人材マネジメント研究会」報告書 (2007)

Short-term Intensive Business Japanese Language Education by the Kanazawa University Consortium in the Framework of the Advanced Education Program for Career Development of Foreign Students in Japan: its Evaluation (Pt.2)

OTA Akira, FUKAGAWA Miho, IMAI Takeshi, SHIMA Hiroko

ABSTRACT

This paper is a continuation of *Ota et al.* (2010), in which we presented the “Business Japanese” (BJ), carried out by the Kanazawa University Consortium in the framework of the *Advanced Education Program for Career Development of Foreign Students in Japan*, and supported by the Japanese government. We have adopted a “short-term intensive” BJ program during the summer and the second spring’s long vacation periods, and have improved five problems, pointed out in the previous paper. As a result, we have confirmed once again that our BJ curriculum still has contributed to raising the BJ proficiency level of our 2nd term-students, who have entered directly from overseas, including eight non-Chinese-character-using-country (Thai and Vietnamese) students. Our recent problem is to make our BJ program’s management independent as soon as possible, because the Japanese Government Revitalization Unit (*Gyousei Sasshin Kaigi*) has decided to abolish the Advanced Education Program, mentioned above, in the open budget screening debate (*Jigyou Shiwake*) held on November 2010.

keywords: *Career Development Program for Foreign Students in Japan, Advanced Education Program for Career Development of Foreign Students in Japan, Kanazawa University Consortium, Short-term Intensive Business Japanese Education, Independent Management*